

組合だより

2023/6/8

東京女子医大
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために
貴方も労働組合へ加入しましょう！

みなさんの
加入を
まっています。



大学理事会の姿勢を変えさせるためには、労働組合を強く大きくすることが必要です！
貴方も組合に加入を！

★去る5日に夏期一時金回答★ 昨年水準を0.2ヶ月アップで月数2.0ヶ月の回答！

収支は6年連続の黒字。教職員の待遇改善にもっと還元すべき！

3年連続の引き上げは一定評価できますが、「離職の進行」「外来・入院患者の大幅減」「コロナ禍前の状態に戻る兆しが無い」という現状を生み出している要因については明確にしません。理事会がそのことを認識して見直さない限り先は見えません！



6/5付・夏期一時金回答

- ★ 全職員 月数 2.0ヶ月分
- 平均支給額 全職 597,708円
- 平均賃金 全職 298,854円
- 支給者総数 3,566名
- 平均勤続年数 13.6年
- 平均年令 41.0才
- ★ 4月採用者は寸志2万円支給
5月採用者は寸志1万円支給
- 【昨年度(2022年)回答】
全職員 1.8ヶ月
- ★ 夏期休暇

6/15～9/30の間に職員5日、嘱託・医療錬士・研修医は3日を付与。期間内での取得が困難な場合は10/31まで取得可能

【女子医大の夏期一時金の推移】

2015年	2.35ヶ月＋扶養手当2ヶ月分
2016年	2.10ヶ月＋扶養手当2ヶ月分
	2.00ヶ月＋扶養手当2ヶ月分
2017年	2.10ヶ月のみ
	1.60ヶ月のみ
2018年	2.10ヶ月のみ
	1.70ヶ月のみ
2019年	2.10ヶ月のみ
	1.80ヶ月のみ
2020年	1.00ヶ月のみ
2021年	1.50ヶ月のみ
2022年	1.80ヶ月のみ
2023年	2.00ヶ月のみ

※2016～19年は上段が看護師の支給率で下段が看護師以外の職種の支給率

【2017年度～2022年度の6年間の財政状況の推移】

年度	収支差額	人件費	医療収入	補助金
17年度	+7億円	397億円	788億円	40億円
18年度	+40億円	383億円	806億円	39億円
19年度	+48億円	382億円	821億円	36億円
20年度	+82億円	366億円	743億円	128億円
21年度	+60億円	358億円	731億円	130億円
22年度	+14億円	349億円	?億円	67億円

去る5日に大学理事会より夏期一時金回答が提示されましたが、その内容は昨年水準を0.2ヶ月アップの2.0ヶ月という回答でした。

大学当局は、回答理由を「令和4年度の収支差額は約14億円の黒字となったが、前年度と比較して約46億円も黒字額が減った。補助金で何とか黒字を計上しているが、コロナ禍の影響による患者減・医療収入減は前年度より大きい」「本来なら収入が減少すれば賞与の支給も抑制せざるを得ないところだが、物価高騰の中で教職員の生活を守ることもモチベーション維持・向上、職防止の観点から昨年水準を引き上げるこ

とにした」と述べています。

確かに、3年連続して前年を上回る回答を示したことは一定評価できますが、この間の財政状況を見ると、17年度以降は6年連続して黒字財政を続けており、ましてや『この間の賃金抑制や一時金引き下げが教職員の離職を助長している』と考えれば、もっと教職員の待遇改善に予算を回すべきではないでしょうか。

一方、「医師や看護師の相次ぐ退職や募集しても集まらない」「外来患者やベッド稼働率が回復しない」という現状は、今でも変わっていません。理事会はそのことを生み出している要因については納得できる説明



をせず、教職員に対して『今後の課題』を提起し、「教職員の皆さんと共に、これらの課題に取り組み、実行するにかかっている」ことを強調しています。

しかしその前に、現状の厳しい状況を生み出した根本的な要因を明確にして、そこにメスを入れていくことが必要なのではないでしょうか。何よりも理事会が教職員からの信頼を取り戻すことが先決です。